

(セミナー名称)		
2020年度第2回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2020年度第2回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2021年1月24日(日)に2020年度第2回山形県がん化学療法セミナーを第1回に引き続きWeb開催で実施した。</p> <p>特別講演Ⅰとして、山形県立中央病院 呼吸器内科 麻生マリ先生から「肺癌の最新治療Ⅰ～Driver Mutation～」と題してご講演頂いた。また特別講演Ⅱでは、山形県立中央病院 呼吸器内科 日野俊彦先生より「肺癌の最新治療Ⅱ～Non-Driver Mutation～」と題し、ご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2021年1月24日(日)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>51名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>特別講演Ⅰでは、山形県立中央病院 呼吸器内科 麻生マリ先生から「肺癌の最新治療Ⅰ～Driver Mutation～」と題し、各ドライバー遺伝子(EGFR, ALK, ROS-1, BRAF, MET等)変異/転座について解説頂き、各遺伝子変異/転座を標的とするキナーゼ阻害薬について、臨床試験の結果とともに特徴的な副作用と注意点についてご講演頂いた。治療選択肢が増えたドライバー遺伝子変異/転座陽性症例に対する治療戦略について整理する事が出来た貴重な講演であった。</p> <p>特別講演Ⅱでは、山形県立中央病院 呼吸器内科 日野俊彦先生より「肺癌の最新治療Ⅱ～Non-Driver Mutation～」と題し、ドライバー遺伝子変異/転座陰性時の薬物治療についてご講演頂いた。まず肺癌の組織分類、病期分類と治療戦略といった講演を頂いた後、薬物治療の変遷について殺細胞性抗癌薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬を用いた年代別の治療戦略についてご解説頂いた。肺癌領域でも広く使用される免疫チェックポイント阻害薬による有害事象(irAE)は早期発見・早期治療が重要と話された。最近では殺細胞性抗癌薬との併用療法が実施されており、多種多様な副作用の早期発見のため多職種で対応していく必要性を再確認したセミナーであった。</p>		